



# 末森合戦古戦場



末森城入口に建つ古戦場碑

争のひとつで、越中領主の佐々成政が、前田利家領の加賀と能登の分断を図って加能国境の末森城を攻めた合戦である。成政が率いる本隊は富山城を出発、宝達山麓を迂回して、天正12年(1584)9月9日に末森城を包囲した。先手は山下甚六、佐々平左衛門、野々村主水、菊池十六郎安信、寺島牛之助らであり、成政は坪山砦に本陣を置いた。前年の5月、奥村家福は千秋範昌とともに末森城に入城、利家の指示で改修して有事に備えていた。佐々軍に包囲されたとき、家福と範昌は土肥伊予守次茂(上杉方として当地に移り住み織田方の配下となっていた)と城将として500余の兵で守備していたとされる。

10日、家福は金沢城の利家に援軍を要請するも、佐々の大軍の猛攻に三の丸を守っていた次茂は討死してしまう。二の丸を守っていた範昌も佐々軍に押し込まれて、家福の守る本丸に後退する。急を聞いた利家は、金沢城を長兄利久に託し、弟秀継の津幡城で松任城の嫡男利長と合

流して軍議を開く。不破直光、村井長頼を先手に、利長、利秀(秀継の子)、慶次(利久の養子)らと津幡を出発し、途中、北川尻に佐々方の神保氏張が4000の兵で待ち伏せているとの知らせを受け、街道を避け夜陰に紛れて海岸伝いに砂浜を北上して今浜に着陣した。

11日早朝、前田軍は佐々軍の背後を急襲し、城内に突入する。形勢不利とみた成政は退却を指示、途中、笠野の鳥越と俱利伽羅の砦を占拠して越中に戻ったと伝えられている。

合戦地：石川県羽咋郡宝達志水町竹生野周辺

対戦者：前田利家 vs. 佐々成政

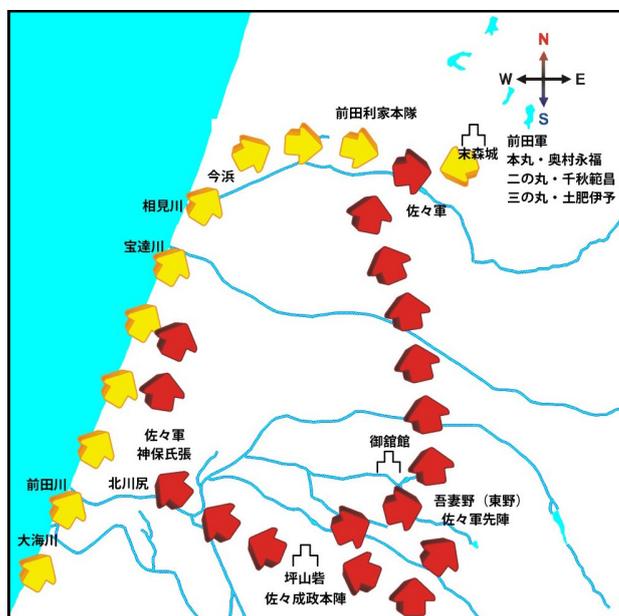
軍勢：前田軍 末森城 500余

援軍 2500

佐々軍 15000

開始年：天正12(1584)年9月

天正12年(1584)3月に始まる小牧・長久手の戦いは、羽柴秀吉と織田信雄・徳川家康連合軍が9月に渡って争った合戦であり、「末森合戦」は羽柴方の前田利家と織田方の佐々成政が北陸で戦った代理政



古戦場カードに関する最新情報・お問い合わせ  
 北陸城郭プロジェクト (フリー・スタイル有限会社)  
 〒929-0335 石川県河北郡津幡町井上の荘3-9  
 TEL. 076-204-6046 FAX. 076-289-3943  
 E-MAIL. contact@j-sampo.com  
 ホームページ城郭さんぽ <https://www.j-sampo.com/>